

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

研究会基本情報

タイトル: 「インドネシア周辺の少数言語・危機言語ドキュメンテーションに関する研究ネットワークの構築」(平成 27 年度第 3 回研究会)

2015 年度第 3 回研究会 (通算第 6 回目)

日時: 2016 年 3 月 19 日 10:00-17:00

John Bowden (AA 研外国人研究員) "The Directional System of North Maluku Malay"

Anthony Jukes (AA 研外国人研究員 "Linguistic Enfranchisement")

ビジネスミーティング (活動報告と来年度の計画策定)

各自のウェブページ構築作業

研究会の概要

今回の研究会では二人の外国人研究員 (ともに共同研究員) が報告を行った。

John Bowden 氏はマルク州ハルマヘラ島で話されているマレー語 (いわゆるテルナテ・マレー) が現地のパプア系の言語の影響によって **directional system** を発展させていることを論じた。標準的なマレー語では、日本語や英語と同様、発話の場にある事物を指すのに「ここ」「そこ」であるとか、「右」「左」などのように話し手や聞き手を基準とする相対的システムを用いるのが一般的であるが、ハルマヘラで話されているマレー語では島の地形である「海」「山」を基準とした **directional system** を用いるのが一般的で、これはパプア系の土着語の影響によるものであると考えられる。**Directional** は東部インドネシアの各地で見られる現象で、同様の現象を調査している共同研究員との間で活発な議論が交わされた。

また、Anthony Jukes 氏はインドネシアの各地で見られる選挙ポスターにおける少数言語の扱いを論じた。これは近年研究が盛んになってきている **Linguistic Landscape** という視点による研究であり、「画像」の記録という言語ドキュメンテーションの新しい可能性を示すものであった。